

DBS グループ・ホールディングス(DBSM)

ブロックチェーン活用の国際決済「パーティア」、AI活用顧客通知「ナッジ」などデジタルバンクで世界の先端を進む
シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2022/12期1Q(1-3月)は、総収益が前年同期比2.7%減、純利益が同10.3%減。ウェルスマネジメント手数料減と経費率悪化が響いた。
- 2022/12期会社見通しでは、貸出残高増と純金利マージン拡大の貢献の一方、ウェルスマネジメントと投資銀行部門の不確実性が残る。
- ブロックチェーン活用の国際決済「パーティア」でSWIFTに対抗のほか、AI活用の顧客通知「ナッジ」などデジタルバンクで先端を進む。

What is the news?

4/29発表の2022/12期1Q(1-3月)は、総収益が前年同期比2.7%減の37.47億SGD、総収益に対する営業費用の比率を示す経費率が同2.7ポイント上昇悪化の43.9%、貸倒引当金繰入額が同5.5倍の55百万SGD、純利益が同10.3%減の18.01億SGDだった。貸出残高増により純金利収益が増加したものの、ウェルスマネジメント手数料の減少が響き減収。利益面では賃金引上げによる営業費用の増加が響いた。

1Q収益の内訳は以下の通り。①純金利収益は前年同期比3.7%増の21.87億SGD。純金利マージン(NIM)が同0.03ポイント縮小の1.46%と悪化も、3月末貸出残高が同8%増となったことが貢献。前四半期比では貸出残高は2%増、純金利マージン(NIM)は同0.03ポイント上昇と良化した。②純手数料およびコミッション収益は前年同期比6.5%減の8.91億SGD。ローン関連、カード、取引サービス手数料が増加した一方、市況の悪化に伴う取引減少により、ウェルスマネジメント手数料が同21%減の4.08億SGDだったことが響いた。③その他の非金利収益は同16%減の6.69億SGDだった。

How do we view this?

2022/12期会社見通しは、6月末貸出残高が3月末比で1-2%増、昨年末比で3-4%増。米金利上昇によりUSD/SGDの為替相場を通じて純金利マージン拡大が想定されることから純金利収益の改善を見込む。また、純手数料収入については、移動制限緩和に伴うクレジットカード等の利用増加による恩恵のほか、継続的な債券市場の変動性上昇がトレーディング収入への追い風になる一方、ウェルスマネジメントおよび投資銀行部門は市況に左右されるため、不確実性が大きいと見ている。

同社は、米JPモルガン・チェースおよび筆頭株主テマセクHDSと共にブロックチェーンを使った国際決済の「パーティア」に共同出資を行い、21年10月にUSDとSGDの銀行間取引を僅か2分で完了させた。パーティアは24時間・365日稼働し、ユーロや円、人民元での決済も視野に入れ、国際的な決済ネットワークを支配する「SWIFT」に対抗の構えだ。

また、同社傘下のDBS銀行が国内顧客向けに通知する「ナッジ」は、人工知能(AI)が個々の顧客の保有資産や取引履歴を分析して顧客ごとに異なる内容かつ異なるタイミング、プラットフォームで通知を行うなどデジタルバンクの先端を走っている。

業績推移

※参考レート 1SGD=97.75円

事業年度	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12F	2023/12F
当期利益(百万SGD)	6,391	4,721	6,805	7,358	8,730
EPS(SGD)	2.50	1.86	2.66	2.84	3.37
PER(倍)	12.01	16.15	11.29	10.57	8.91
BPS(SGD)	19.96	21.42	22.41	23.01	24.81
PBR(倍)	1.50	1.40	1.34	1.31	1.21
配当(SGD)	1.23	0.87	1.20	1.42	1.63
配当利回り(%)	4.10	2.90	4.00	4.73	5.43

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD) 1.42 (予想はBloomberg)
終値(SGD) 30.03 2022/7/8

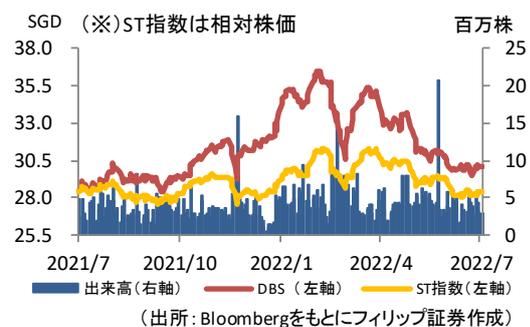
会社概要

1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立された世界的な金融サービスグループ。18ヶ国で280以上の支店を展開する。アジアの中心的な商業銀行として、「Asia Way Banking」という独自のブランドのもと、アジア経済の長期的なポテンシャルを引き出すことに注力している。アジア経済の成長ドライバーとして中国本土、南アジア、東南アジアの3つ地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでいる。

シンガポール本国では、DBS銀行とPOSB(People's Bank)のフランチャイズチェーンを通じ、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務のほか、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向け与信業務、ウェルスマネジメント業務の3つの業務に注力している。

企業データ(2022/7/12)

ベータ値	1.21
時価総額(百万SGD)	78,004
企業価値=EV(百万SGD)	-
3か月平均売買代金(百万SGD)	139.9



主要株主(2022/7)

1. テマセク・ホールディングス	29.57
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.94
3. VANGUARD GROUP	2.37

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。